

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	しながくどう八田		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～ 令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたち一人ひとりの特性を専門的に分析し、その特性に基づいた個別の関わり方や療育内容を設定している点です。さらに子どもの成長や変化に柔軟に対応し、適宜療育計画を見直す体制を整えています。この取り組みにより、子ども達が安心して過ごし、自己成長を促進する環境を提供できています。	日々の昼礼での状況交換や定期的なカンファレンスを通じて、職員間で子どもたちの状況や課題を共有しています。この取り組みにより、スタッフ全員が一致した対応方針を持つことができ、個々の子どもに対する支援が一貫性を保ちながら適切に行えるよう努めています。また、迅速な情報共有により、課題解決に向けた柔軟な対応も可能となっています。	保護者面談の機会を増やして家庭での状況や課題を共有し、一貫した支援体制を築く事を目指しています。また、職員が研修や勉強会に積極的に参加し、療育の専門知識を学び直す事で、より効果的で質の高い支援を提供出来るように努めています。
2	保護者と情報を共有しながら、子どもたちの課題に対して一緒に解決に取り組む体制を整えています。また、担当者会議に積極的に参加し、他機関との情報交換を通じて支援の方法や色々な視点を取り入れて支援の質の向上を図っています。	保護者との面談や担当者会議への参加を通じて、子どもたちや家庭の状況を把握し、適切な支援を提供できるよう努めています。これらの取り組みにより、保護者や関係機関との連携を強化し、一貫した支援体制を構築しています。	保護者や関係機関との定期的な連絡や意見交換の機会を増やし、相互の理解を深めることで、高い連携体制を構築します。具体的には、保護者との定期的な面談や状況報告の実施、関係機関とのカンファレンスの開催などを通じて、情報共有を行い子どもたちに対する一貫性のある支援に努めています。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の方々との交流の機会が少ない点が課題となっています。地域とのつながりが少ないことで、地域のお力をお借りした活動や、子どもたちが地域社会の一員として関わる場を十分に設けられていない状況です。今後、地域との交流を深めることで、子どもたちの社会性を育み、地域とのつながりを広げていけると考えています。	地域住民や団体と接点を持つ機会が限られており、これが交流の実現を難しくしています。特に、地域の方々に当事業所の活動内容や役割を十分に伝える場が少ないため、互いの理解を深める機会を逃している可能性があります。また、地域の行事や活動に参加する機会を積極的に活用する取り組みが不足していることも要因と考えられます。	地域の方々を招いたイベント(見学会、交流会、ワークショップなど)を企画し、当事業所を知ってもらえる場を作ることが重要です。子どもたちと地域住民が一緒に楽しめる内容を取り入れることで、自然な交流が生まれ、双方の理解とつながりが深まることを期待されます。
2			
3			